

2016（平成28）年2月27日

保護者の皆様へ

関西大倉高等学校  
校長 尾崎 正敏

### 学校評価アンケート結果のお知らせ

向春の候、保護者の皆様におかれましては、益々、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校教育にご理解並びにご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、12月～1月にかけて行ないました学校評価アンケートにつきまして、集約を致しましたので、報告申し上げます。またご多忙にもかかわらずご回答いただきありがとうございます。今回のアンケートは、質問項目につきましては、昨年同様35項目、4段階（よく当てはまる・ほぼ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない）として544名の皆様（高一236名、高二167名、高三141名）より評価していただきました。回収率は昨年より高一学年が約12%、高二学年約4%低下しましたが、逆に高三学年は実施時期を早めたこともあり、回収率が約9%アップしました。下記に、今後の課題として、主立ったものを記させていただきます。また、結果につきましては、授業アンケートと併せてHP上に公表させていただきます。

#### I 過年度比較から

##### 5 「行事や教育活動の取組みの保護者への伝達」(全体5.8%増)

学校HPでの報告なども含めた評価をいただいたと考えられます。

##### 28 「行事を充実させていて、学校生活を豊かに」(高二9.6%増)

高次の二学期末に実施された球技大会(サッカー・バドミントン)が評価をいただいたと考えられます。

##### 21 「テストの得点だけでなく、色々な面から評価」(高一5.0%・高二8.8%増)

進路学習で取り組んだ社会人基礎力をはかるPROGテスト(リテラシー/コピテラーテスト)の実施が評価をいただいたと考えられます。今年度は2学期を中心に実施しましたが、次年度は高一の1学期、高次の二学期と時期を固定して推移をみる予定です。

##### 19 「生徒が意欲的に取り組む教育課程の工夫」(高一7.2%増) 23 「講演や様々な体験を積む授業や授業以外の学習の機会」(高一6.8%増) 26 「生徒が主体的に取り組む活動」(高一7.2%増)

高一で行なわれた情報科と総合学習(キャリア教育を軸とした進路学習)を協働させた企業プレゼンテーション代表の企業訪問(8月初旬)、大学講師・企業担当者による講演(コミュニケーション・マーケティング・プレゼンテーション)論(6月~10月)、67名の保護者、24名の企業の方にご参加いただいた企業別プレゼン発表会(1月など)一連の取組みが評価されたと考えられます。当日の保護者アンケートからは、「終了したチームの視聴態度に問題があるが、将来に向けて大変有意義である」などのご意見をいただきました。企業側の「新鮮な感覚で刺激を受けました。次年度も是非参加を検討したい」との積極的評価もありました。また85%の生徒が自らの取組みを肯定的に捉え、多くが将来に向け有意義と考えています。

【参考】ABCニュース(1/23)【連携】「課題解決型授業」 企業と学校がコラボ  
産経新聞【北摂版】(1/24朝刊)企業からの“難題”に挑む 関西大倉高生、チームでアイデアまとめ発表  
<http://www.sankei.com/region/news/160124/rgn1601240056-n1.html>  
関西大倉学園 HP「お知らせ 一覧を見る」 <http://www.kankura.jp/>

29「災害時の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルの伝達」(全体5.4%減)

12月中旬に阪神地区で発令された暴風警報に対する連絡が不十分で、ご迷惑をおかけした結果が反映されたと考えられます。暴風警報発令時の対応については、反省を踏まえ、次年度からは2段階の判断を6時30分に一元化する予定です。

30「事故防止に配慮、施設設備の点検・修理」(全体7.2%減)

年末に発生した火災事故に対する注意喚起を求める数字と考えられます。次年度は、防火管理上の点検・修理の徹底を図り、避難訓練を春・秋の2回実施する予定です。

## II 今後の課題

31「他の学校にない特色ある教育活動の展開」(全体マイナス評価29.7%) 昨年度比では、前述のPROGテストや企業プレゼンの評価で3.2%回復しているものの、さらなる特色の明確化が必要と考えます。また、校内の森林・竹林の整備も着実に進行しており、現在、「かんくら山を育てる会(仮称)」設立に向けて、保護者の方にもご参加いただき準備を進めています。

19「生徒が意欲的に取り組むように教育課程の工夫」(全体マイナス評価25.5%) 26「生徒が主体的に取り組む活動」(全体マイナス評価25.2%)

今年度本格的に始まった上述の企業プレゼンの内容を、反省を踏まえて、より充実させたいと思います。また、一部取り組みが始まっている「アクティブ・ラーニング」の強化・拡大、生徒の表現に対する評価基準の研究を推進させる必要があります。

27「生徒会や委員会活動の活発化」(全体マイナス評価29.2%) 新入生に対する文化祭、運動部紹介など年々充実を図っているが、保健委員会などの定期的開催を含め「見える」化を推進します。

33「生徒と保護者と地域の人たちが交流する機会」(全体マイナス評価56.3%)

文化部(吹奏楽・和太鼓・クラシックギター・ダンス)の公演、各種行事への参加や運動部(サッカー・ソフトボール)が地域の中学生との交流を行っているが、ほかのクラブを含めて拡充を図りたいと思います。次に、高二で実施されている古典芸能鑑賞会(狂言、津軽三味線など)開催のご案内の広報のあり方や実施時期を含め、周知徹底を図るべく努力致します。

最後に、単に上記にあげた項目だけにとどまらず、今後の教育活動改善のために、保護者の皆様のご助言等も取り入れるとともに、更なる飛躍を目指していく所存です。今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。